



# 仙台塩釜港復興だより 第10号

## — 港湾は人の心も結んでいます —

### 災害復旧工事の進捗について

現在、国土交通省東北地方整備局塩釜港湾・空港整備事務所と宮城県仙台塩釜港湾事務所では、東日本大震災により被災した公共土木施設の災害復旧工事を実施しているところです。

先行して工事に着手した国土交通省の災害復旧工事のほか、宮城県の災害復旧工事についても、荷さばき地や野積場の舗装等を含め、早期完成を目指してまいります。

平成25年1月31日現在における宮城県の災害復旧工事の発注状況は右表のとおりです。

公共土木施設全体の災害査定件数は仙台港区、塩釜港区、松島港区を合わせて190件あり、そのうち107件を発注しており、発注率は約56%となっています。また、設計が遅れている防潮堤及びその関連施設を除いた発注率は約96%となっています。

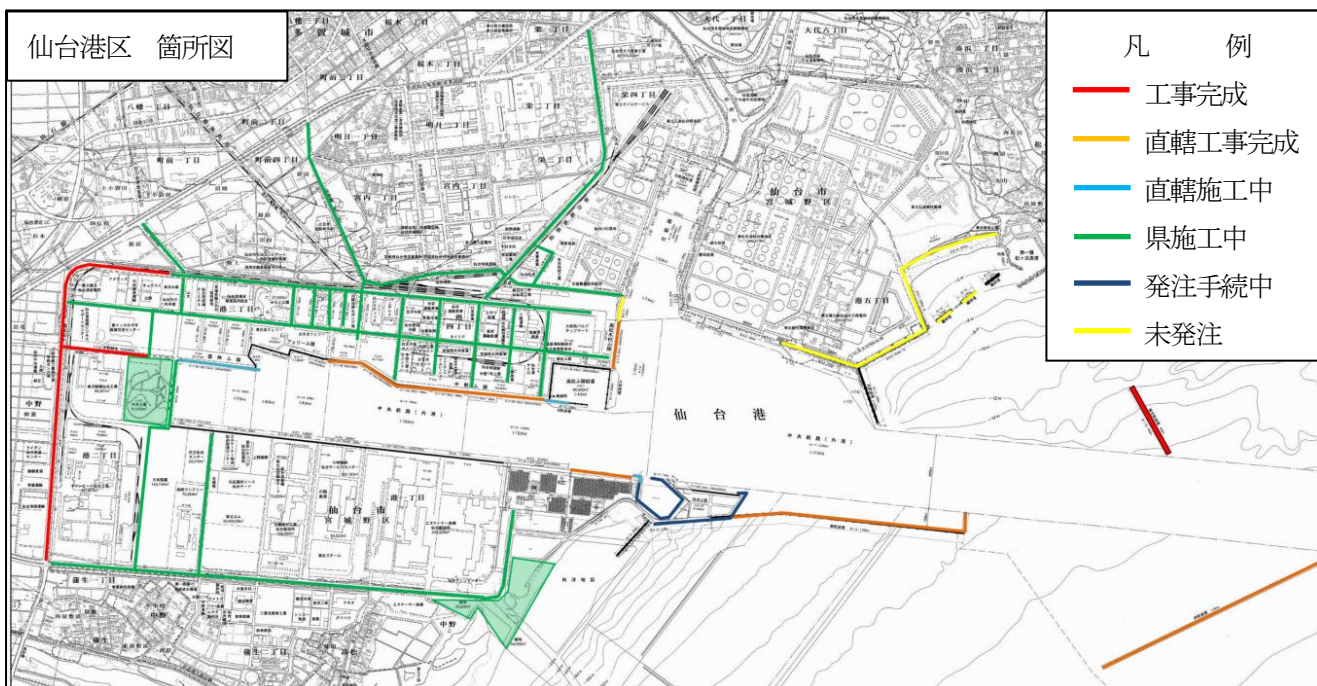
なお、仙台港区の工事箇所を下図に、次ページには塩釜港区及び松島港区の工事箇所図を掲載しています。

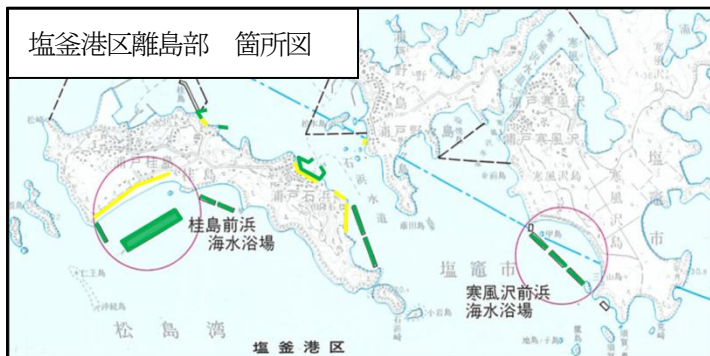
公共土木施設全体の災害復旧工事 (箇所毎)

	査定件数	発注件数	発注率
仙台塩釜港 (仙台港区)	48	43	90%
仙台塩釜港 (塩釜港区)	121	54	45%
仙台塩釜港 (松島港区)	21	10	48%
合計	190	107	56%

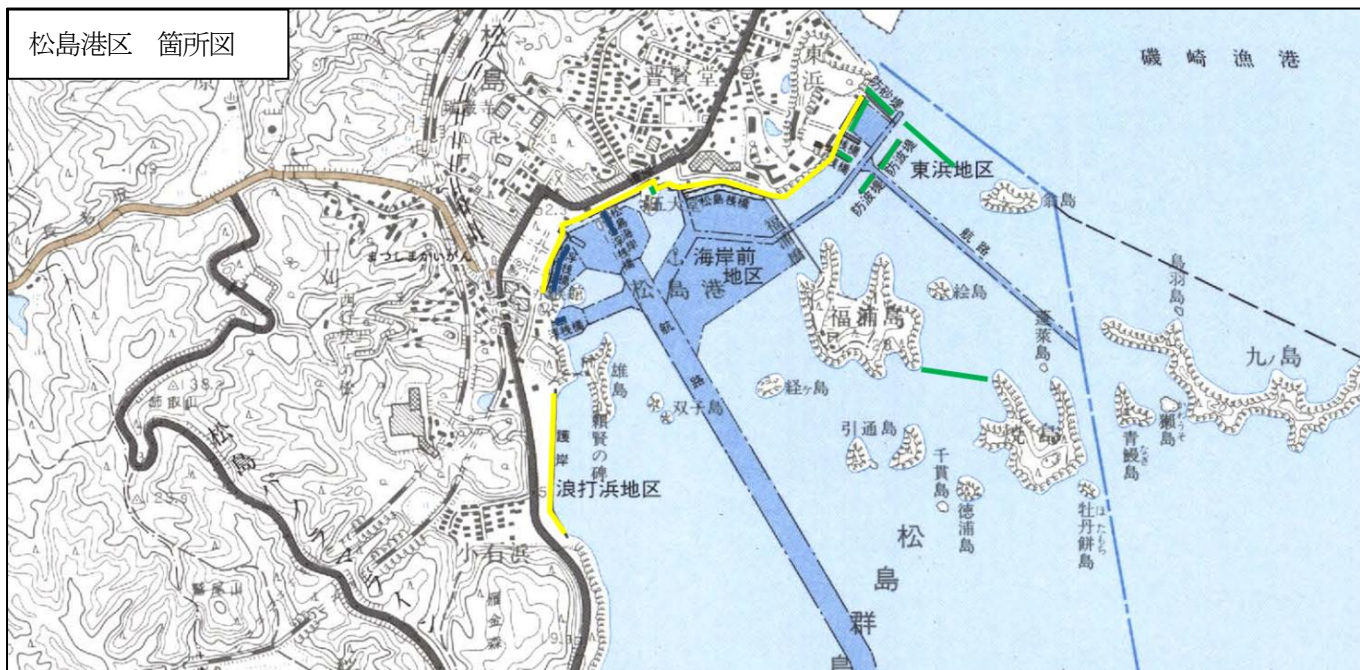
防潮堤関連除く災害復旧工事 (箇所毎)

	査定件数	発注件数	発注率
仙台塩釜港 (仙台港区)	45	43	96%
仙台塩釜港 (塩釜港区)	56	54	96%
仙台塩釜港 (松島港区)	10	10	100%
合計	111	107	96%





- 凡 例
- 工事完成
  - 施工中
  - 発注手続中
  - 未発注

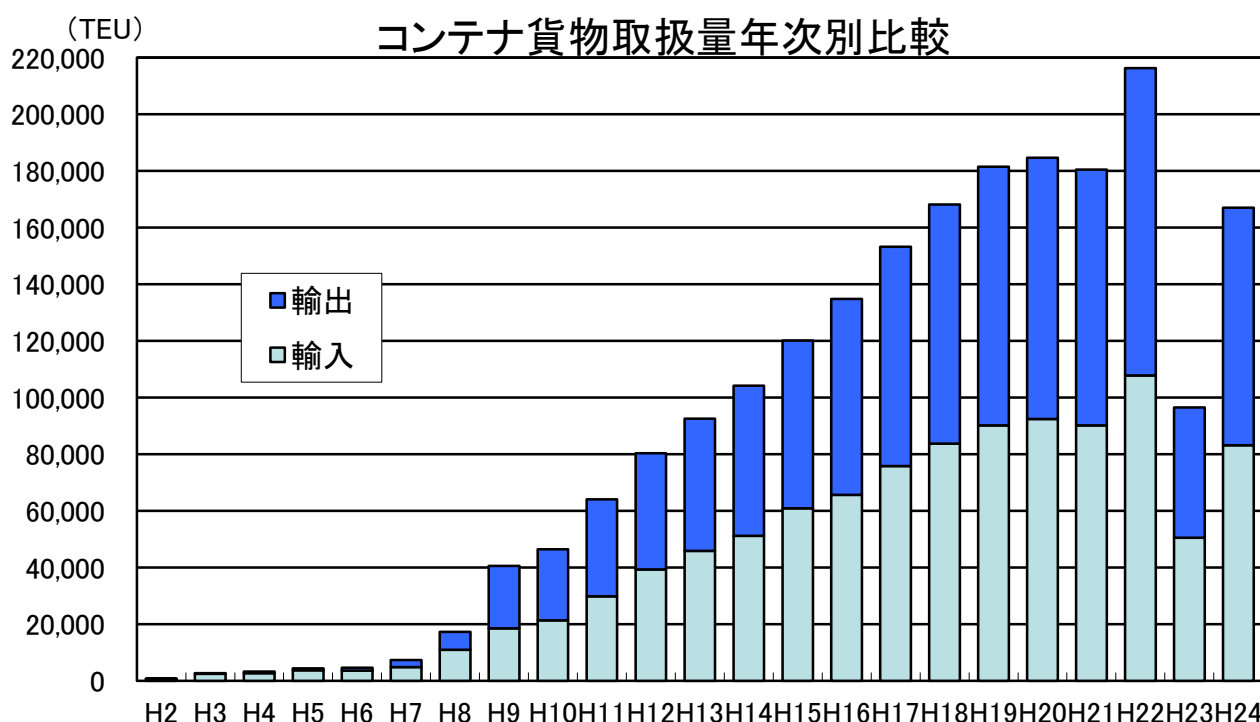
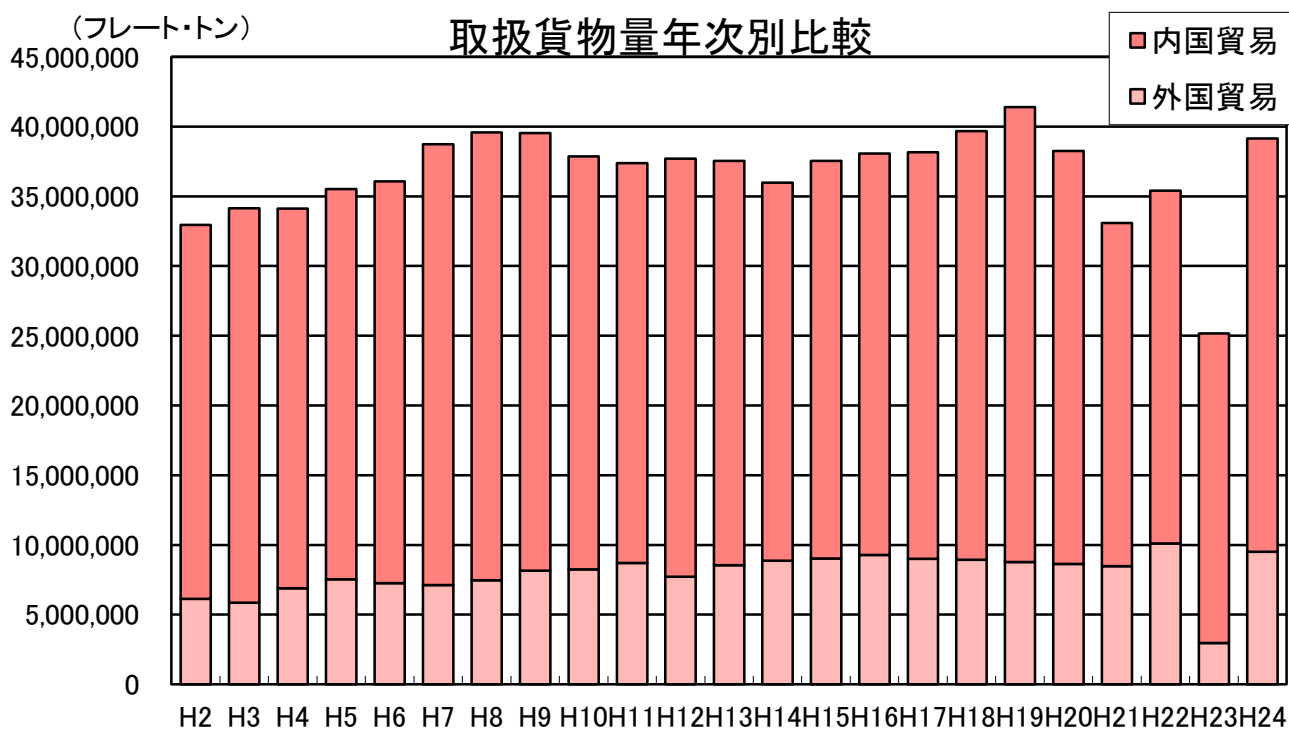


### 平成24年の貨物取扱量の速報値について

仙台塩釜港における取扱貨物量は、東日本大震災による港湾機能の一時停止や利用企業の被災などにより、平成23年全体では前年比70%弱まで減少しました。平成24年の取扱貨物量は約39,137千トンとなり、震災前の平成22年と比較すると約111%となります。

また、平成2年より開始されたコンテナ貨物は年々取扱量が順調に増加してきましたが、平成23年は東日本大震災に伴い96,528TEUと大幅に減少しました。平成24年のコンテナ貨物取扱量は約167千TEUと前年の約173%程度となる見込みであり、平成22年と比較すると約77%まで回復しております。

なお、これら貨物取扱量の回復により仙台塩釜港の平成24年の貿易額についても、震災前の平成22年(約7,729億円)の約96%にあたる約7,392億円に達する見込みです。

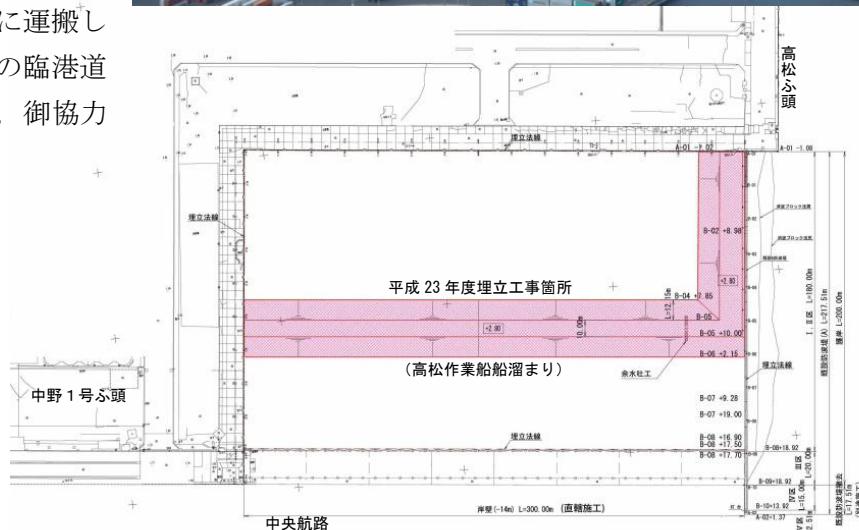


(仮称) 新高松ふ頭の埋立工事が始まりました

(仮称) 新高松ふ頭は、平成20年12月の仙台塩釜港港湾計画の改定(外貿埠頭計画変更)により、穀物船の大型化と貨物の増加に対応するため、高松作業船船溜まり(約5.4ha)を埋立・造成し、水深-14m岸壁の整備を行います。

-14m岸壁はすでに直轄施工により着手しており、平成26年度に完成する予定です。これに合わせて、岸壁背後のふ頭用地の埋立・舗装の整備は県施工により行います。

埋立に係る必要埋立材量は、約44万m<sup>3</sup>であり、今年度工事では約7万m<sup>3</sup>の埋立を行います。埋立材は海上運搬より、船溜まり北側の高松-12m岸壁に揚土後、ダンプトラックにて船溜まりに運搬し投入します。工事期間中は、船溜まり周囲の臨港道路を多数ダンプトラックが走行しますので、御協力の程よろしくお願ひします。



仙台港 I C が開通し仙台塩釜港の利便性が向上しました。

昨年の12月1日に仙台東部道路の仙台港インターチェンジ(IC)が開通しました。仙台港ICは仙台東-仙台港北ICの間に位置し、仙台塩釜港と直結する重要なICです。仙台港ICの利用により国道45号の交通渋滞を避けられ、コンテナや完成車の運搬がスムーズになるなど、物流効率の向上が期待されます。これまで以上に利用しやすい仙台塩釜港となり、東北・北関東の物流拠点として今後更なる発展が期待されます。



編集事務局

宮城県仙台塩釜港湾事務所 編集委員

〒983-0001

仙台市宮城野区港三丁目1-3 アクセル5階

TEL 022-254-3132

FAX 022-254-3136

E-mail: [sdsgkowns@pref.miyagi.jp](mailto:sdsgkowns@pref.miyagi.jp)